

いのち
生命のにぎわい調査団
いのち
生命のにぎわい通信
第8号：発行日 2009.6. 26.

季節報告：セミの初鳴き

「生き物見分け方：季節報告・セミの初鳴き」

夏の生き物・昆虫といったら、セミ！セミの鳴き声は夏の風物詩です。夏休みに昆虫採集をしたり、自由研究でセミの羽化の観察をしたことがある調査団員もいるのではないのでしょうか。

セミは地上で過ごすのは1～2週間で“はかない命”の代名詞ですが、卵→幼虫→成虫という不完全変態のうち、幼虫時代が地中では数年間（種により2～6年間）もあり、昆虫の中では長生きです。長生きなセミの中でも、素数周期ゼミ（北米で13年、17年の周期で大発生して、交雑の可能性を最小公倍数221年としている説）が大変有名ですが、日本にはいません。

セミは種類により、鳴き始める時期、鳴き声や鳴く時間帯が異なり、種類を判別する手がかりともなります。初鳴きは、平年は、7月初め「ニイニゼミ」の声で始まり、同時期に「ヒグラシ」も明け方や夕方に、涼しく郷愁を誘う鳴き声で鳴き始め、その後、晩夏まで鳴き続けて季節の移ろいを心に刻んでくれます。今年は早くも6/24に「ヒグラシ」の初鳴き報告が団員2名（千葉市と八街市）からあり、梅雨の中休みの暑さに早めに羽化してしまったのでしょうか。

梅雨明け頃から真夏の暑い日中は、「ミンミンゼミ」「アブラゼミ」です。真夏の昼の暑い時間帯に鳴くセミは「アブラゼミ」が主で、炎天下に油で揚げられているようにジージリジリジと鳴き、これが名前の由来です。

夏休みの中盤には「ツクツクボウシ」が鳴き始め、「クマゼミ」は7月下旬から、午前中か雨上がりの日射しが強くなる時に鳴きます。

初鳴き報告とともに、観察できたセミの写真の添付もお待ちしております。

さて、ここ数年、セミの世界においても、分布地図の塗り替えが起きているようです。地球温暖化の影響なのか、南方種のセミ「クマゼミ」の生息分布が北上しています。これは、植木の根に卵や幼虫がついて人為的に移入されたとの説や都市のヒートアイランド現象の影響も考えられるとされています。また、アブラゼミが遅く（10月）まで鳴いているのも、ヒートアイランド現象による気温と羽化の変化の影響といわれています。

大きな声で鳴くセミの音を出す仕組みは、腹側から観察してみるとわかります。腹部に発音器があり、発音筋を振動させることで音を出し、空洞となっている腹部で共鳴させて大きな音となります。

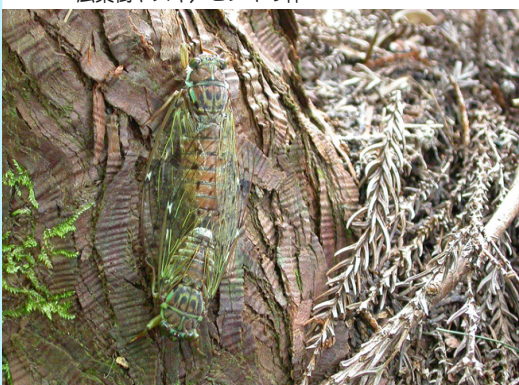
オスがメスを呼び寄せるための演奏は、複雑で、起承転結もあるなかなかの音楽であり、林の中は大合唱になります。ちなみに、メスは鳴きません。

皆さんご存知でしたか？
イソップ童話の有名な夏遊び歌う虫と働き者のアリの話は、ギリシャ語原文では「アリとセミ」だそうです。セミは地中で長く暮らし、ようやく地上に出て、この世の夏を歌い上げています。

ヒグラシ

体長：オス2.8～3.8cm、メスやや小さい
鳴き声：カナカナカナ・・・ 高い音

特徴：翅は透明で、体は茶色。
頭部の複眼付近と前胸の縁と背面中央は緑色、
広葉樹やスギ/ヒノキの林



発行：千葉県環境生活部自然保護課
生物多様性戦略推進室
生物多様性センター
〒260-0852 千葉市中央区青葉町955-2
(千葉県立中央博物館内)
TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615
URL <http://www.bdcchiba.jp/monitor/>
E-mail monitor@bdcchiba.jp

ミンミンゼミ

体長：3.3～3.6cm

鳴き声：ミンミンミンミンミー

特徴：翅は透明、体つきは丸みあり。
胸部と腹部の境界付近が白い、体は黒地に水色と緑の斑紋。サクラやケヤキ



クマゼミ

体長：6～7cm

鳴き声：シャオシャオシャオ

特徴：アブラゼミやミンミンゼミに比べ
頭部と胸部は幅広い。翅は透明、背中
はツヤ黒、腹側に白い横斑2つ、広葉樹林



ツクツクボウシ

体長：約3cm、ヒグラシより小さい

鳴き声：ジー、ツクツクオーシィ・・・、ウィオース・・・

特徴：翅は透明で、体は細身で黒っぽく、緑と黒の斑紋がある。サクラやカキなど多くの樹林





「生命(いのち)のにぎわい調査団現地研修会」

現地研修会報告(5月30日・土)市原市市民の森において、にぎわい調査団の今年度第1回目の現地研修会を開催しました。

テーマは、初夏の生き物(夏鳥・水辺の生物)やモリアオガエルの産卵を探してみよう!! 数日前から停滞した低気圧の影響で雨天が続き、当日朝まで雨が降り続きましたが、「雨が降っても行く予定でした」と元気に集合した団員とその家族38名に事務局を加えて総勢52名。参加者アンケートからは、「防水加工した生物見分け図や指導員の説明もよくわかった」、「晴天に再来場したい」、「次回の研修会も参加したい」との声が多かったです。

市民の森の許可をもらい、採取したオタマジャクシや水生昆虫は水槽に集めて見分けてみたり、モリアオガエルの産卵光景や泡に包まれた卵塊も観察でき、周辺の植物も調べ、今回の研修により、団員の観察力や生き物見分け技術がさらに向上したと思います。

観察した生物は、鳥類10種、ハ虫類2種、両生類9種、魚類2種、昆虫35種、クモ2種、水生節足動物5種、植物28種。山の水辺はいのちのにぎわいに満ちていました。残念だったのは、一声聞きたかったサンコウチョウ(月日星ホイホイホイ)や一目会いたかったキビタキや猛禽類、集合時間前に来所観察していた団員だけが写真に撮れたオオルリ、事前視察では小吹池に沢山いた魚類が雨で観察できなかったことでした。

トンボのヤゴと比べてイトトンボのヤゴは体が細長く、腹部の先のエラ(尾鰓びさし)が3本伸びているのが特徴的な姿で、エラの形で種を見分けるようです。

ヘビトンボは、清潔な川の指標生物ですが、幼虫は大きなアゴが特徴で、見た目のとおり、川ムカデ・孫太郎虫と呼ばれています。多数いたヤマアカガエルのオタマジャクシは、イモリや水生昆虫のエサで食物連鎖の底辺を支える大事な役割と実感させられました。



生き物を探す、観察する、見分ける、よく知る
身近な生き物を知ることから、生物多様性へ!



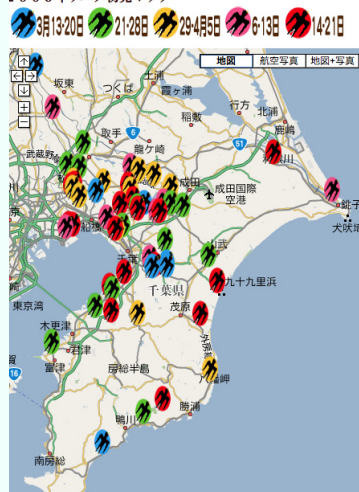
生物報告の結果について

にぎわい調査団のHPに、団員から報告いただいた6月中旬までの生物報告を掲載しています。<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>

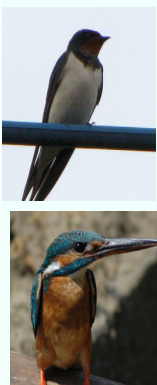
3月以降は毎月約300件の報告があります。まず、季節報告「ツバメの初見」は、南からの春の使者! 来訪が心待ちな鳥であるため、初見・営巣の報告は全部で75件でした。初見の最初は3月13日和田町で、翌日には千葉市内で、約10日間で県内全域に広がり、昨年より少し早いのではという声が多かったです。銚子気象台発表の気象概況3月の生物季節観測では、初見3月27日(昨年は同日、平年は4月3日)でした。

生物報告では、飛ぶ青い宝石「カワセミ」の生息分布を地図にまとめてみました。都市化と池や川がコンクリート護岸で固められて、巣を作れなくなって生息数が減少していた鳥でしたが、水系によっては観測が続いており、近年、少しずつ都市部の公園や調整池等での繁殖情報もあります。生き物にはその生息地の環境が大事なことがわかります。

2009年ツバメ初見マップ



カワセミ 発見マップ



自分自身が自然の一部になれる子どもの探究心はすごい!!と感心しました。昆虫博士も生物探検隊長もみんな目が輝いていました。生き物とその生息域・生態系を知ることが生物多様性へつながります

企画展:生物多様性1のお知らせ!

生命(いのち)のにぎわいとつながり虫、魚、鳥、
・・草、木、・・人」 *別添チラシを参照してください

その素晴らしさを、親から子へ、そして孫へ

平成21年7月4日(土)~8月31日(月)

主催:千葉県立中央博物館・千葉県生物多様性センター

共催:ちば生物多様性県民会議・里山シンポジウム実行

委員会・千葉県立中央博物館友の会